

工事代金をカード決済

助太刀とクレディセゾン 傷害保険も自動付帯



助太刀（東京都渋谷区、我妻陽一代表取締役CEO）とクレディセゾンは11日、Visaアプリペイドカード「助太刀カード」の写真をリリーする。スマートフォンで現場と職人をつなぐマッチングアプリ「助太刀」の決済サービス「助太刀Pay」の機能を拡大し、受け取るその日の工事代金を、アプリ経由で助太刀カードにチャージする。国内外のVisa加盟店で利

用できる。カードは仕事中のけがに対し入院費や手術費を補償する傷害保険を自動付帯する。建設現場で働く職人に必要な機能を備えるカードを目標として展開する。カードは助太刀アプリから申込み、クレディセゾンが発行する。入会金・年会費は無料。1回の工事代金の受け取り上限額は10万円で、チャージ手数料は7%となる。カード会員間でアプリペイド残高

を送金でき、日常の支払いの割り勘にも利用できる。みずほ銀行から現金振り込みのチャージも可能で、カードで支払う金額の0・25%が残高にキャッシュバックされる。

リリース記念キャンペーンとして、1月11日～6月30日の期間のチャージ手数料を7%から5%にする。工事代金1万円以上をチャージすると500円のボーナスチャージをプレゼントする。

また、付帯保険はあいおいニッセイ同和損害保険が提供する。傷害入院（1日当たり）5000円、傷害手術は入院中の場合5万円、入院中以外の場合は2万5000円を補償する。今後、保険サービス

も充実させる予定で、請負賠償保険や盗難保険などのサービスを展開する予定だ。SMS（ショートメッセージ）を利用して職人と現場をつなぐマッチングアプリ「助太刀アプリ」は現在4万7000人が登録。助太刀Payは24時間365日、全国のセブン銀行ATMでその日の工事代金を受け取れるサービスとして利用が拡大している。同社は助太刀を基盤に職人に必要なサービスを提供することで、「魅力ある建設現場」の創出に貢献していく。

